

# 支援への感謝伝えたい

気仙沼、高田両高

被災女子生徒4人米へ出発

東日本大震災で被災した気仙沼高(気仙沼市)と高田高(陸前高田市)の女子生徒4人が24日、米国に旅立った。10日間の日程で現地の高校生らと交流を深める。東京のNPO法人「ホープ フォー トゥモロー」の後押しで実現。4人は「震災支援への感謝の気持ちを伝えたい」と話した。

## 東京のNPOが交流橋渡し

気仙沼高1年の清水裕の深尾果南さん(16)の4 授業や課外活動に参加。香子さん(16)、飯味千秋 人。現地の高校生宅にホ 英語のスピーチもするとさん(16)と高田高2年の ームステイし、ニューヨーク 熊谷葉月さん(17)、1年 ーク郊外の中高一貫校で

清水さんは「震災直後は海外からも多くのボラ

「ありがとう」

ホームステイや英語でスピーチ

自分の言葉で

ンティアが来てくれたた交流プログラムも展開が、コミュニケーションする。

が難しかった。自分の言葉で『ありがとう』を表現したい」と言う。飯味さんは「苦しい状況を乗

米国への出発の前に、NPO法人のスタッフから説明を受ける気仙沼高、高田高の女子生徒

り越えて進もうとしている復興の姿を、スピーチに託したい」と意気込んだ。

NPO法人は元外務官僚の田中均さんらが設立。岩手、宮城、福島

の5校244人の高校生に大学などの受験費用の給付や、気仙沼高と米国の

大学を結び、インターネットのビデオ通話を使っ

た交流プログラムも展開する。

理事の田中理絵子さん(62)は「次代を担う高校生

の教育や国際交流の機会を支えたい。寄せられた善意を今後も被災

地にリレーする役割を担っていく」と話している。

